

●参加者の感想

◆いつもの事ながら、やっぱり参加してよかったなというありきたりの思いが残りました。とんでもないスケジュールで、今回はさすがに無理かなと思いましたが、時間をやりくりして参加してよかったと思います。

とにかく、超伝導がここまで来たということがよくわかりました。昔は夢のように思えた技術が本当に必要に近づいているということが実感できました。もちろん、まだまだ課題はありますが、やっぱり、実際に聞かないとわからない事が多いですね。

鉄道に応用しようというのは、もちろん先生が鉄道総研にいらっしゃることも関係していますが、その効果が目に見える形になるという事でも興味深い内容でした。鉄道の電気システムが開発されて、かなり経ちますが、その基本的なことを変えてしまうかもしれない検討です。エネルギーの消費の観点でも価値がある可能性が高いと思います。

一方、まだまだいろいろな技術を集積すること、つまり複合材の開発においてさらにより良いものを作るために検討の余地があるとも思いました。知識の集積でさらによくなると思います。

ところで、どうやって、鉄道の実用にたどり着いたのか？また、スピード感をもって検討が進んでいるのか、もう一度、先生の話や議論を踏まえて考えてみました。

- ・好奇心が忘れられている → できない理由になっている
- ・続けると出来る そのために、面白いと思うこと、思い続けること、しつこくこだわること
- ・また、何をすべきか よく考えること そのためには先を読み込んで 進めていくことが大切
- ・新しいこと、常に新しいことを考えて、どうやったら実現できるか現場を見て考えること
- ・乗り越えるために面倒なことをやりきる それは面白いと思うからできる。
- ・常に努力することが大切。

バラバラで申し訳ありませんが、常にやり遂げようと思う事が大切だという、当たり前前の結論になりましたが、やっぱり大切なことは大切ですね。 以上。

◆超電導体を使って送電するなど実用化はまだまだ先の話だと思っていましたが、ここまで進んでいるということに驚きました。高温超電導のバルクを実現するための発想法には感銘を受けたといっても過言ではありません。

(学生時代、卒論で高温超電導を目指してひたすら配合比率を変えた実験をしているのを横目で見ていましたから。)

人と違った切り口で物事を捉え、基礎研究だけでなく実用化まで考えるということが重要なことです。非常に良い刺激を受けました。

◆超伝導が「魔法の技術」ととらえられ、基礎研究の域からなかなか出ない状況を決して良しとせず、そこを何とか打開したいという強い思いがモチベーションとなられていたとのことでした。そのためには、できることからまず「実用化」することの大切さ。そういう思いを強くもっていると仲間が集まってくる。全体にわたって、常に次のステップを意識されているところなど、お話しの方々に説得力があり、とても勉強になりました。帰りの電車の動画広告で、鉄道の回生エネルギーを駅に供給するシステムの宣伝が流れていました。つい、食い入るように観てしまいました。